



単元名	ごんぎつね	4 時間
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の気持ちの変化や性格について、教科書の叙述を基にしなが想像することができる。 (知識、技能) ○ 自分の考えやその基となった根拠を書き示すことができる。また、集団の話し合いから、相手に分かりやすく伝える工夫をし、自分の考えとの共通点や相違点に気付くことができる。(思考、判断、表現) 	
日本語の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 美しい風景描写(多彩な色の記述)に気が付くことができる。また、それらを登場人物の気持ちと重ねあわせて読み取ったり、今後の活動に活用することができる。 例：どんよりと灰色の空 → 暗い気持ち 真っ青で澄み切った空 → 明るい気持ち ○ より分かりやすく自分の考え方を相手に伝えるために、日本語の使い方に気を付け、工夫をしながら発言することができる。 	
学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の叙述を丁寧に読み取る。 2 グループ活動の中で積極的に自分の意見を述べたり、友達の考えを受け入れることができる。 	
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語を通して、ごんや兵十の気持ちの変化を読む。 ○ 6場面について細かく読みとり、二人の心の通い合いについて考える。 	
評価の観点	○積極的に自分の考えを伝え合う活動に参加している。また、自分と異なる意見についても聞く姿勢や質問する姿勢を持ち、理解しようとする。	

学習活動計画

時	内容	活動	ポイント
1	つかみ	(めあて) <u>物語全体のあらすじがわかる</u> <ul style="list-style-type: none"> ● ごんはどんな人物？ ● 登場人物、場面、季節、設定の確認。分からない言葉の確認 ● 登場人物の性格について、根拠を基に考える <u>ひとりぼっちの小ぎつねからどのような印象をうけるか。</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ワークシート」初発の感想を書く→発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語全体の構成をとらえ、時間の経過をとらえる。 ○びく、火縄銃などの語句を挿絵を参考に説明する。 ○子ぎつねでなく、小ぎつねから、青年期ごろのぎつねと分かる
	家庭学習課題		
2	みつける	(めあて) 2～4 場面のごんの行動と気持ちを叙述より考える <u>気持ち曲線グラフをつくる。</u> <ul style="list-style-type: none"> ●場面ごとにごんの行ったことの整理をし、その時々の方持ちの移り変わりを考える。 同情(同じひとりぼっち)→つぐない→自分と分かってほしい ●引き合わないなあ、と考えた上で、まだ、そのあくる日もくりをもっていくのはどうしてだろう。 ● 「ワークシート」→ごんの方持ちグラフ 	<ul style="list-style-type: none"> ○兵十への償いの内容や繰り返しの行為に着目し、ごんの方持ちの高まりを考える ○二人の会話をきいているごんの様子やかげぼうしをふみふみするまで、距離を近くに寄っている様子に着目する
	家庭学習課題		

3	よく考える	<p>(めあて)</p> <p>5, 6 場面 (山場) について深く考える 5 場面の終わり「引き合わないなあ。」について 引き合わないの反対、「引き合う」とはどんなことかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●つまらない、ひきあわないと思っているのに、なぜまた栗を持っていくのか、話し合う。 ●兵十の視点の移動を読む。兵十は、何をいつ気がついたのか。 <p>「ワークシート」⇒山場を読んで。自分の感想</p>	<p>○撃った後の兵十の視点の移動から、何を考えているのかが分かる。 家の中⇒土間の栗 (気づき) ⇒ごん</p> <p>○最後の一文からどんな感じがするのかを考える。</p>
	家庭学習課題		
4	伝える	<p>(めあて)</p> <p>6 場面で、ごんに問いかけたと兵十とごんの心が通じあいについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ようし。」と言ったときの兵十の気持ちを考える。 (視点が 5 場面までのごんから兵十へ移っている) ●呼称の変化から、兵十の気持ちの変化を考える。 <p>話し合い活動の中で、自分と意見を発表したり、異なった考えを聴く。質問をすることで、自分の考えをより深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業のまとめとして、本文の最初の一文、「これは、わたしが小さいときに…」は何のためにあるのかを想像し、自分の考えを発表する。 	<p>*兵十の言動を手がかりに、ごんの思いは兵十へ届いたのかを考える。</p> <p>「ごん、おまいだったのか、いつもくりをくれたのは。」の後、兵十がつたえたかったことは何だったのか。心内語を考える。</p> <p>○単元の学習を振り返り、自分の考えや読みを友達に伝える。</p>

* 指導にあたって

本教材は、ひとりぼっちのさびしさからいたずらをしていたごんが、兵十のおっかあの死は自分のせいだと思込み、自分と同じ「ひとりぼっち」という同情の気持ちから、つぐないの気持ちへ、そして自分の存在に気が付いてほしいというひたむきな思いの変化が描かれた物語である。児童は、ごんの気持ちの高揚に共感しながらも、ひたむきなごんの気持ちのこもった行動が最後に意外な展開になってしまうことに驚きと悲しみをもって読み進めていくことができるだろう。

本学級の児童 (20 名) は、既習の物語の学習をとおして、教科書のかぎ (言葉) の部分からだけでなく情景描写や人物の行動の叙述から、登場人物の気持ちを読み取ることを学習している。だが、それを自分の言葉を通して伝える体験や話し合う活動の経験が少ない。

本時では、個人の読みの力を生かしながらも、グループで話し合い活動をすることで、気付かなかったごん的心情の細かな変化や、言葉の少ない兵十の気持ちを想像する力を育てたい。また、全体的におとなしく、発言することをためらう子が多い児童らに、楽しいと感じられる話し合い活動を体験させることを目的としたい。その中で、一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、友達の考えのよさから自分の考えを再構築し、考えを深めさせたい。